

1. 種子消毒(下記の2つの消毒方法によりいづれかを選択し、必ず実施してください。)

小麦作付時から排水に努め、小麦の排水溝を有効活用しましょう。

①紫斑病と害虫の予防 クルーザーMAXX (初期生育と病害虫の防除に絶大な効果が見込めます。)

種子大豆5kgを肥料などの空き袋に入れ、クルーザーMAXX40mlを入れます。上下左右に袋を振り、薬剤が均一に種子に付着したのを確認し、30分から1時間、陰干しをして播種。

②紫斑病と鳥害の予防 キヒゲンR-2フロアブル

種子大豆5kgを肥料などの空き袋に入れ、キヒゲンR-2フロアブルを100ml入れ、上下左右に袋を振り、薬剤が均一に種子に付着したのを確認し、30分から1時間、陰干しをして播種。すぐに播種はしない。

2. 10アールあたりの播種量(4~5kg) 大豆は分けつしないので、播種量(苗立数)で収量が決定します。筆ごと、作業ほ場枚数ごと、作業日ごとに播種量の確認をします。

ことゆたかA1 6月下旬 フクユタカ 7月上中旬

※大豆は播種後2~3日の間に冠水すると発芽率が著しく低下しますので、天候を見計らって作業をしましょう。

3. 除草剤(必ず播種直後に散布しましょう。)

クリアターン細粒剤E 10アール当たり4~5kg

※初期の除草は除草剤で、2回の中耕作業により除草効果が高まります。

4. 施肥基準(10アール当たり)

品種名	土づくり	元肥	追肥
ことゆたかA1号	粒状 苦土石灰 100kg ブロードキャスターなどで施用	大豆化成610 (乾田 20kg) (湿田 30kg) シーダーまたは動力散布機で施用	硫安 10kg (開花期に施用する)
フクユタカ	粒状 苦土石灰 100kg ブロードキャスターなどで施用	大豆化成610 (乾田 20kg) (湿田 30kg) シーダーまたは動力散布機で施用	施用しない。

※乾田か湿田かにより、元肥の施用量を調整して下さい。収量性が良い圃場で30kg施肥すると蔓化(実がならない)する可能性があるため、注意が必要です。

5. 病害虫防除

防除回次	品種ごとの実施日		薬剤名	散布量	対象病害虫
	ことゆたかA1	フクユタカ			
防除①	8月上旬	8月中旬	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ類・ハスモンヨトウ
防除②	8月下旬	9月上旬	スミトップM粉剤	3~4kg	マメシクイガ・カメムシ類・紫斑病
防除③	9月上旬	9月中旬	スミチオンベルコート粉剤DL	3kg	マメシクイガ・カメムシ類・紫斑病
防除④	9月中旬	9月下旬	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ類・ハスモンヨトウ

※この資料に記載された農薬は、令和元年12月1日時点での登録内容です。

※使用前にはラベルの登録内容を必ず確認してからご使用ください。

6. 中耕・培土について

中耕作業は、本葉2枚から4枚展開期に2回実施しましょう。開花1週間前に終了しましょう。

7. 収穫作業について

莢を振れば、カラカラと音がする時期が成熟期です。

刈取適期は、成熟期の4~14日後です。(子実水分18%以下)

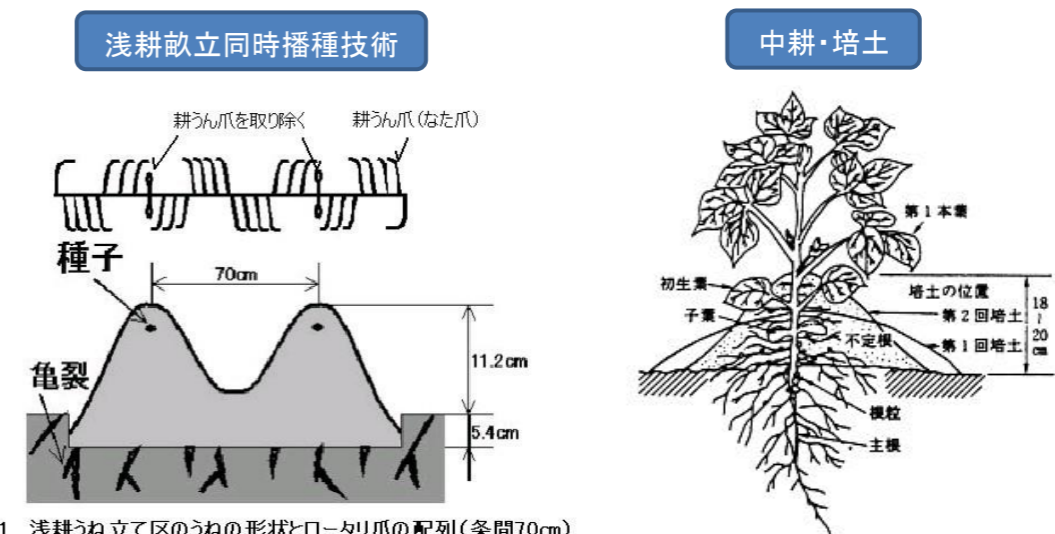


図1 浅耕うね立て区のうねの形状とロータリ爪の配列(条間70cm)

浅耕畝立同時播種技術とは

湿害を回避するため、浅耕で耕耘しながら畝を立てると同時に播種する技術です。そのためには、図1のようにロータリの爪の配列を変える必要があります。